

・・・雨でも休まず、230回、231回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1、2月 2日(第一土曜日):小原本陣の森、担い手育成・技術向上
参加費400円。(* 3月から第一日曜日に変更)

定例活動2、2月17日(第三日曜日):若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
参加費400円、(生命の森創造:初参加15名予定)

- ・ 初参加:9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
- ・ 服装:汚れても良い服装、着替え、長袖、滑らない足元
- ・ 持参品:成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、自分のお椀と箸
- ・ 注意:危険管理・救急体制:森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

森林NPO活動は、人間性を高めてくれる。

交通費など自腹を切って参加する善意・無償の森林NPO・当会の会員たちは不思議な人達だと思う。灼熱の夏の下草刈り、寒風吹きすさぶ高所での枝打ち、危険の伴う倒木間伐、搬出。何が彼等を駆り立てるのだろうか。しかも、この11年間、雨でも休まずとか言いながら定例活動は一日も休まなかった。

森は公益性・多様性と言う事から、1)森をつくる、2)森(と都市)をつなぐ、3)森(森林資源)をいかす・・・の3本の柱で森林活動に取り組んでいるが活動班は、森林整備・生態系調査・ガーデニング・ランドスケープ・木工製作・緑のダム体験学校・甲州古道復元・森林広報・木材流通・学生連合などで構成している。100人足らずの団体でよくもこんなに多くの活動が出来るものだと感じる。しかも、それなりの結果を出しているから不思議だ。

この多くの班が何故、無理なく活動しているのだろうか。それは、参加者全員が互いを認め合い思いあっているからだと思う。森林は森羅万象(宇宙一切の物事・現象)の存在だから、森に集まる仲間たちは、六感(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚・意覚)をフルに発揮して互いに共鳴し合い、どこかに人出が足りないなら駆けつけて手伝っている。森を讃える釈迦の掲(ゲ:教え)の中に「木を伐る人にさえ木陰を与える」という言葉がある。それを実践しているのが当会の会員その姿と重なる。森林は、実践活動を通じて人間性を高める方法を教えてくれる。森は厳しいが限りなく優しい。

空気や水を生み出す、こんな森を粗末にしているから、温暖化現象などの人類の存亡が危ぶまれる結果を引き起こしている。緑のダムは、森を守るために活動している。

小原本陣の森・定例活動報告：1月 5日（第一土曜日）

雨でも休まずとか言いながら、1月の冬空の下に14名が集まった。森林整備を始めて2年、未だ、小原の森は深く暗い。



これまで、集合広場では火を焚いていたが、森は少しずつ美しくなっており、チラホラとハイカーを見かけるようになったため、焚き火は止めにする事とした。谷底のここは深々と寒い。

そこでこの日は、基地広場の清掃を済ませ神事の祈り後、森を降り弁天橋経由で陽当りの良い「若柳嵐山の森」に向かった。

若柳の森に付く頃、曇り空も明けて明るい陽射しに恵まれた。夫々、持ち寄りのオセチの残りを出し合って新設の大きな焚き火場で、盛大に火を燃して、新春に乾杯した。

若柳嵐山の森・定例・活動報告：1月20日（第三日曜日） 報告 伊藤 小夜子

“2008年、今年も、良い森活動を！”



年初活動の第一日目午前中は先ず、森神様への事始のご挨拶と軽作業。午後は、新年会。参加者58名。内、初参加16名は、12月に参加した全国学生エココンテストの他大学の学生たち。

* 初参加：桜美林・帝京科学・東大・青山学院・武蔵野・関東学院・法政。このような沢山の他大学からの初参加者の理由は、エココンテストでの学生連合 Forest Nova の発表のレベルの高さは、何処から来るのかを知りたいからと言うことであった。

- ・準備体操は、東京薬大・前川院生発案の「木の気持ち体操：先ず、可能な限り小さく縮んで地面から水を吸い上げ、グーンと背伸びして大気を胸一杯吸い込んで大木になる、これの繰り返し」。結構、良い汗を掻く事が出来る“木の気持ち体操”である。
- ・森神様へのご挨拶は、二礼二拍手一礼、去年の無事故感謝と“今年も、信頼と共感をモットーに森林活動に励みます”と祈念。

・初作業は、作業道具の手入れ、腐葉土の移設、花畑での土運び：花畑班と言っても殆ど土方作業ですよね。初作業に快く汗を掻いて迎えのバスをまった。



午後、新年会：新年会場・五本松から JR 相模湖駅経由のマイクロバスで 2 往復。1 時からの新年会までの待ち時間では、エココンテストで発表した映像での活動紹介は、分かりやすくユーモアあり。15 分の中に凝縮された学生活動の映像報告に「若さの情熱っていいなあ〜」私。

コンテストでは 2 票差で 2 位だったとか。「それもこれも緑のダムのお陰です」と謙虚な学生の好感度 0 (マル)。

活動の初期は、熟年で占められていたが、こんなに早く後継・若者パワーが形になるとは！。何事もやってみなければ分からない！。

新年会：相模原市・戸塚環境経済局長、柳川課長・長谷川課長中島小原町町内会長他 2 名・計 5 名の来賓の方々を迎えての新年会は、丁度午後 1 時に始めた。

永井代表の挨拶に続いて、戸塚局長の励ましの祝辞、中島会長の乾杯の音頭の挨拶も緑のダム活動を讃える祝辞付き。今年の表彰者は、望星の森の宮村教諭、学生連合 Forest Nova、学生を見事に育てた佐々木指導員。副賞には、月尾東大名譽教授著：「地球共生」と図書券。

宴席は、各活動班ごとの今年の誓い。来賓の戸塚局長や中島会長までも今年の抱負を強要した。合い間に、たこ焼きドラマー？清家ミエ子が美声で会を盛り上げた。



3 時 15 分に新年会は終了したのだが、これからが当会の凄さ・有終の美を飾る後片付けがある。



3 時 30 分には、何事もなかったように広間は、掃き清められていた。

.....

相模原市の環境経済局長や小原町内会長がお忙しい中、こうして我々の森林活動を理解して参加して下さることを深く感謝する(石村記)

エココンと1月20日の活動報告

報告：学生連合 Forest Nova 副代表 滝澤 康至

私たち Forest Nova は昨年 12 月 26、27 日に行われた、全国大学生環境活動コンテスト（エココン）に出場しました。

1 グループ 8 団体かける 8 グループが集い、1 日目では各グループ 1 団体を最終に選ぶための選考が行われ、私たちは惜しくも 2 番目の獲得票でした。しかし、私たち Forest Nova の団体理念を高く評価していただけたのが強みであり、同時に活動実績や周りの人を惹きつける“共感”という部分が弱みだと理解しました。



エココンでの発表の様子

そして、1 月 20 日の定例活動では～わいわい楽しく森を歩きながらゴミを拾ってきれいにしよう～という企画をエココンで知り合った学生向けに企画して、森と人をつなぐため「森を身近に感じてもらう」場を設ける活動として実施しました。

午前だけの活動にもかかわらず、法政大学や帝京科学大学、関東学院大学、東京理科大学、武蔵野大学、桜美林大学から 17 名の学生が新たに集まってくれました。

人数の関係上グループに分かれました。それぞれ日大の桜井先生、林さん、佐々木さんの 3 つに別れ、桜井先生では造林学的視点、林さんは嵐山の概要、佐々木さんは嵐山でできることを中心にお話をいただきました。



最後は振り返りとして森で感じたことを漢字 1 文字で示して発表しました。多様性があるので“多”という字や、森の一部を人という字に置き換えて造語にしている人もいました。

こうして集まってくれた学生や、協力していただいた皆様に恥ずかしくないよう、今まで以上に身を引き締めて活動していきたいと思えます。

平成20年度：かながわボランティア基金21：12月25日



一次書類審査応募36団体の内、新規6団体、継続10団体の二次審査は、午前11時～午後7時までの長丁場の審査会となった。審査は、会を重ねるごとに応募団体のレベルも上がり、夫々の団体の活動に掛ける熱意には敬服する。二次審査は、新規3団体、継続10団体を決定。これに対する松岡審査委員長(神奈川大・大学院経営学部教授)の講評は以下の通り。

先ず、全団体に共通して言える事は、申請書の書き方が稚拙で論理性に欠ける。また、補助金は県民からの税金である認識が薄い。この辺の自覚をされたいと言う事であった。

* 当会に対する講評：実績が着実に積みあがっており、都市部・川崎市部の活動は、評価に値する。但し、県担当各部署との事業すり合わせを更に深める事。今後、関係部署(県北森林課・企画部水資源班・本庁森林課)と年度計画・予算を詰めて2月に決済が降りる。

第2回・水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム：

1月17日(木)、18時～21時

神奈川県の水源環境保全・再生政策を県民に衆知徹底させる広報活動として、相模原市橋本の「サンエール相模原」で約200名の参加者を集めて開催された。

内容 1、水源環境保全・再生とは・・・説明：
森林課

2、水源地の現状・・・パネラーによる事例発表

- ・発表者の素材生産者佐藤好延さんは、林業作業(担い手)が少ない、これの育成を強く主張した。
- ・桂川相模川流域協議会の倉橋さんは、流域の現状を話した
- ・緑のダム推薦の学生連合・滝澤副代表は、水源地の将来について。この種のシンポジウムで学生の新しい視点で「全ての人々による協働が必要である」との発想は、目新しく大きな反響を呼んだ。



質疑 Q、県は、「担い手育成」をどう取り組んでいるか。

A、インストラクター養成など取り組んでいるが、思うに任せていない。

Q、県産材住宅の進み具合はどうか。

A , 残念ながら進んでいない。材出荷の6000立米止まり。

訪問：松沢神奈川県知事：1月22日

報告 桜井諒子 (Forest Nova 学習院大3回生)

ご多忙に関わらず松沢・神奈川県知事が面会してくださいました。目的は、神奈川県ご推薦による国土緑化推進機構会長賞(河野洋平会長)受賞のお礼で、緑のダムからは、永井代表・石村理事・

佐々木指導員、望星高校からは宮村教諭・高校生2名、フォレストノバからは学生3名、計9名の訪問でした。



知事は、自らの森林ボランティアに参加されている由。実体験を交えて県の50年計画森林政策構想を、私たちの背中を後押しして下さいように話して下さいました。「緑のダム」については既に、神奈川県を代表する森林NPOであり、益々活躍し、全国を代表する団体になることを期待している。「フォレストノバ」については、次世代の森林インストラクターになりリーダーとして、多くの森林ボランティアを引っ張って下さいと激励を受けました。そのご期待に希望を感じ心が震えました。望星高校生は、自分たちの活動を写真パネル紙芝居風にして森林活動や学校でのビオトープづくりを堂々と紹介していました。

短い時間ではありましたが、私たちの活動や森林への想いを松沢知事と共有できた事で、改めて活動への意欲が湧き、また、大きなエネルギーを頂いた大変貴重な訪問でした。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと.....
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : 特定非営利活動法人緑のダム北相模：若柳嵐山の森、小原本陣の森

事務局 : 154 - 0023 東京都世田谷区若林3 - 35 - 9

発行人：NPO 法人緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03 - 3411 - 1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : info@midorinodam.jp

協働団体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター)、セブニーレブンみどりの基金、(財)オイスカ

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、神奈川建具協同組合、東急コミニテイ。